

令和5年度 図書館だより 〈第3号〉

令和5年7月12日(水) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

夏休み中の開館日と開館時間

以下のとおり開館する予定です。学習や読書など有効に活用してください。
今後、変更になることがあります。学校のWebページまたは図書室の掲示板を確認してください。

7月24日(月)	9:00~16:30	8月7日(月)	11:00~16:30
25日(火)	9:00~16:30	8日(火)	11:00~16:30
26日(水)	9:00~16:30	9日(水)	11:00~16:30
27日(木)	9:00~16:30	10日(木)	11:00~16:30
28日(金)	9:00~16:30	17日(木)	11:00~16:30
31日(月)	9:00~16:30	18日(金)	9:00~16:30
8月1日(火)	9:00~16:30	21日(月)	9:00~16:30
2日(水)	9:00~16:30	24日(木)	9:00~16:30
3日(木)	9:00~16:30	25日(金)	9:00~16:30
4日(金)	9:00~16:30		

夏休み特別貸出の実施

夏休み前に1人10冊まで借りられる特別貸出を実施します。返却期限は夏休み明けの9月1日(金)です。
読書感想文の課題図書や読書活動推進協議会が推薦する「若い人に贈る読書のすすめ」(全24冊)を展示しています。

第56回・夏休みの本(緑陰図書)

全国学校図書館協議会が選定した、今年の夏休みに子どもたちに読んで欲しい本が決まりました。令和4年4月~令和5年3月までに出版された本から厳選したもので、高校生向けの8冊を紹介します。館内で展示しています。

<p>『シタマチ・レイクサイド・ロード』 濱野京子/作 ポプラ社</p> <p>東京の下町、上野公園に程近い都立池端高校2年の湯浅希和子。所属する文芸部では、童話作家になるのが夢だと語る同級生や、熱心に創作に励む後輩部員と接するうちに“何かを表現する人は選ばれた人なのだ”とコンプレックスを募らせていく。そんな希和子を、妹の元カレで後輩の朔だけは肯定し続けてくれた。希和子がようやく劣等感から自分を解放できたとき、朔の希和子に対する想いにも正面から向き合うことに。</p> 	<p>『モノクロの夏に帰る』 額賀滯/著 中央公論新社</p> <p>AIを使って太平洋戦争時代のモノクロ写真をカラー化した本『時をかける色彩』。生々しく戦争の記憶が蘇るその本を巡って4話が交錯する。POPを書いた性的マイノリティの書店員。読書感想文を書く戦略的保健室登校をする中学生。戦時特番のドキュメンタリーを制作するディレクター。日米で異なる戦争教育に戸惑うアメリカ人高校生。戦時下に生きた人々に思いを馳せて、その記憶を次世代に引き継いでいく。</p> 
<p>『ヘルンとセツ』 田淵久美子/著 NHK出版</p> <p>日本に憧れ、英語教師として島根県松江に赴任したラフカディオ・ハーン。ヘルンとは彼のニックネームであり、セツとは、ハーンを支えた日本人妻のことである。言葉も通じない、まるで境遇の違う二人の奇跡のような出会い。あや取りの綾(あや)が解かれていくように惹かれ合い、周囲の人々の献身的な支えもあって結婚し、「怪談」が発表されるまでを、明治時代の山陰地方を舞台に、ドラマチックに描いていく。</p> 	<p>『うけいれるには』 クララ・デュボン=モノ/著 早川書房</p> <p>舞台は、フランスの自然豊かな山あいの家。重度の障害をもって生まれた三番目の子どもを中心に、長男、長女、そして未っ子それぞれの立場から家族の葛藤が描かれる。兄は無垢な弟を献身的に介護するが、姉は、不平等に怒り抵抗する。「普通でいることを勝ち誇っている他者」の存在は、両親を含め家族を苦しめるが、やがて大自然の営み、優しさ、姉の奮起、未っ子の誕生を通して、安らぎの境地に達するまでを描く。</p> 
<p>『僕とアンモナイトの1億年冒険記』 相場大佑/著 イースト・プレス</p> <p>アンモナイトは大昔に絶滅した軟体動物である。その名前を聞いたことがある、巻き貝のような形を知っている」という人は多いだろう。どこで生まれ、どう成長し、殻ではない本体はどんな姿だったのか。現代に残る化石から1億年前の生物の謎に迫っていく。時に悩みながらも、古生物研究者としての道をひたすらに突き進む著者の奮闘ぶりが生き生きと描かれている。知的好奇心のままに学ぶことの喜びや充実感が伝わってくる。</p> 	<p>『車いすテニスの革命 国枝慎吾選手ゴールデンスラムまでの軌跡』 本條強/著 山川出版社</p> <p>車いすテニスの第一人者で、今年1月に現役を引退した国枝慎吾さん。昨年、ウィンブルドンで初優勝を果たし、四大大会のすべてをパラリンピックを制する「生涯グランドスラム」を達成した。本書では、福祉の側面から捉えられてきた車いすテニスを競技スポーツとして認知させ、その可能性を自身のプレーで切り開いてきたことが、本人へのインタビューなどを通して詳細に語られている。パラスポーツの魅力や可能性が伝わる。</p> 
<p>『ボーダー 移民と難民』 佐々涼子/著 集英社インターナショナル</p> <p>日本語教師だった頃から在留外国人と接してきた著者、佐々木涼子。知人で難民の弁護にあたる児玉晃一との再会から、ある入国管理センターを訪れることに。そこで長期間収容されている外国人たちへの面会を通じ、人権が損なわれている窮状に愕然とする。難民確定率が1%以下と極めて低い日本。10年にわたり在留外国人の声にならぬ声をすくいあげ、日本の入管と移民・難民問題を追いつけたノンフィクション。</p> 	<p>『「ナバーム弾の少女」五〇年の物語』 藤えりか/著 講談社</p> <p>ベトナム戦争末期に撮られた1枚の写真は、世界中に衝撃を与え、反戦運動に火をつけた。その写真から50年、写真の「主役」となった少女のその後を描いたノンフィクションである。大火傷からの生還、ベトナム政府に反米プロパガンダの「道具」とされた日々。結婚を機に夫と共に自由を手に入れるため必死の亡命と、その後の生き様は、あまりに劇的すぎるものであった。平和や自由の尊さを考えさせられる一冊である。</p> 

全国高等学校ビブリオバトル2023 群馬県大会参加者募集

図書室の廊下に開催要項を掲示しました。参加希望者は、9月22日(金)までに図書室まで申し込みをお願いします。
日時：令和5年11月3日(金) 会場：群馬県立図書館(前橋市日吉町1-9-1)